

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

病害虫発生予察注意報第 7 号

作物名：トマト
病害虫名：疫病

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域

発生量：平年及び前年より多い

2) 注意報発令の根拠

- (1)12月15日～18日に行った調査において、8圃場のうち2圃場で疫病の発生を認め、発生株率は4.4%(平年0.2%、前年0%)であり、平年及び前年より多かった。+(図1、写真1～2)
- (2)県内の防除員の調査では、4圃場のうち2圃場で発生が認められ、発生株率は5.0%であった。+
- (3)上記以外の圃場においても発生が認められている。+
- (4)福岡管区气象台が12月20日に発表した九州北部地方の週間天気予報によると、向こう1週間(12月21日から12月27日まで)は、気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく、降水量は平年より多い見込みとなっており、今後も本病の発生に好適な気象条件になると予想される。+

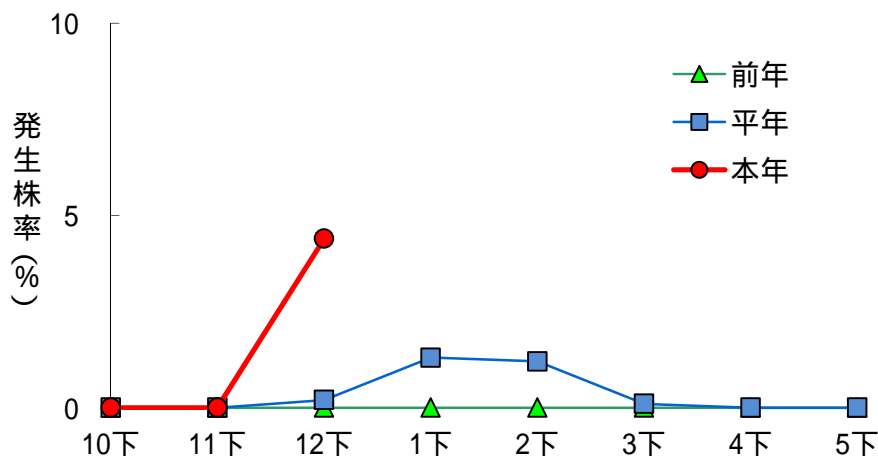


図1 トマト疫病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1)圃場の換気、排水を図り、多湿を避ける。
- (2)窒素過多を避け、適切な肥培管理を行う。
- (3)早期発見に努め、発病を認めたら罹病部位を除去し、圃場外で適切に処分する。
- (4)薬剤散布は発病初期から実施する。すでに発生が認められる圃場では3～4日間隔で2～3回行う。
- (5)防除薬剤は表1を参照し、農薬の安全使用を徹底する。農薬の選定にあたっては、薬

剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないようローテーション散布はもとより計画的な防除を行う。

(6)防除方法は県病害虫防除のてびき(P215-216)を参照する。

<https://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/1075/32933/ns-nougyou/47429.html>



写真1 茎に発生した疫病
(平成27年12月17日撮影)



写真2 葉に発生した疫病
(平成27年12月17日撮影)

表1 病害虫防除のてびきに掲載されているトマト疫病に登録のある薬剤¹⁾

薬剤の系統	薬剤名 (成分名)	希釈倍率	使用時期	使用液量	本剤の使用回数
無機系化合物	コサイド3000 (水酸化第二銅)	1000倍	- 2)	100~300L/10a	-
無機系化合物	ドイツボルドーA (塩基性塩化銅)	500倍	-	100~300L/10a	-
無機系化合物	Zボルドー (塩基性硫酸銅)	400~600倍	-	100~300L/10a	-
ジチオカーバメイト系	ジマンダイセン水和剤 (マンゼブ)	800倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内
フルイミド	オーソサイド水和剤80 (キャプタン)	800~1200倍	収穫前日まで	100~300L/10a	5回以内
クロロトリル	ダコニール1000 (TPN)	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内
Qil殺菌剤	ライメイフロアブル (アミスルプロム)	2000~4000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	4回以内
ジチオカーバメイト系 +フェニルアミド系	リドミルゴールドMZ (マンゼブ,メタラキシルM)	1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内
Qil殺菌剤+クロロトリル	ドーシャスフロアブル (シアゾファミド,TPN)	1000倍	収穫前日まで	150~300L/10a	4回以内
その他有機化合物 +ジチオカーバメイト系	カーゼートPZ水和剤 (シモキサニル,マンゼブ)	1000~1500倍	収穫前日まで	150~300L/10a	2回以内
CAA殺菌剤+無機系化合物	フェスティバルC水和剤 (ジメトモルフ,塩基性塩化銅)	600~800倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内
CAA殺菌剤+ジチオカーバメイト系	フェスティバルM水和剤 (ジメトモルフ,マンゼブ)	750~1000倍	収穫前日まで	100~300L/10a	2回以内
CAA殺菌剤+クロロトリル	プロポーズ顆粒水和剤 (ベンチアパリカルブイソプロピル,TPN)	1000~1500倍	収穫前日まで	100~300L/10a	3回以内

1)表中の農薬登録情報は平成27年12月22日現在のものであるため、薬剤の使用に当たっては必ず最新情報を確認する。

2) - 印は使用時期または使用回数に制限がないことを示す。